

鈴木治夫(「雅楽だより」担当)

筆築用ヨシの経過と現状を報告させていただきます。

経過としましては、9月初旬に木村さんから「筆築用のヨシが全滅していいいます」というお話から始まりました。すぐに木村さんに電話しましてお聞きしました。それを「雅楽だより」(10月号)にヨシ原の写真などを添えて掲載しました。

筆築用ヨシの「全滅」は、雅楽の「滅亡」に続く

そして私なりに問題点を整理して、動画をアップ(この文章の最後にアドレスを付けました)するようにいたしました。これは本当に雅楽の「滅亡」を意味していると思ったからです。年表などを製作して眺めてみますと、70年前からヨシ原は悪くなり始め、50年前には「このままでは、ヨシ原は全滅する」と書かれているのを読みまして、ある意味「50年もの生命力があったのか」と驚くほどでした。

その後、何とかしなければと何人かに声をかけさせていただきました。

何回か動画をアップしながらいろいろな方とお話していきますと、やはり「これは、雅楽の滅亡を意味する」という結論に至りました。

「筆築の蘆舌 全滅の危機に 再生への道をさぐる-6

今のヨシ原」

<https://www.youtube.com/watch?v=eqsZXxMWg30>

「筆築の蘆舌 全滅の危機に 再生への道をさぐる-7

ヨシ原焼とつる草抜き」

https://youtu.be/_yBTBLekj3I

「筆築の蘆舌 絶滅の危機に 再生への道をさぐる-8

つる草抜きに向けて」

<https://youtu.be/0hBrpD6VUVQ>

「筆築用ヨシの再生」へ

2つの方策 「ヨシ原焼き」と「つる草抜き」

今後の「筆築用ヨシの再生」には、植物学の先生方のご意見などもお聞きまして「ヨシ原焼き」と「つる草抜き」(つる草がヨシにからまり付きヨシを枯らしていくのでそのつる草を除去すること)が必要と思に至りました。この「ヨシ原焼き」と「つる草抜き」を行う事が「筆築用ヨシの再生」に絶対に必要な要件と考えています。

「ヨシ原焼」については、地元の方々や高槻市などの方々によって来年は実行されることとなりました。



今年はヨシが全滅 写真 木村和男さ



今年はヨシが全滅 写真 木村和男さ



今年はヨシが全滅 写真 木村和男さ



ヨシ原焼き 2018年2月25日
写真提供 NEXCO 西日本

「つる草抜き」は 40 年前にも地元の「高槻公害問題研究会」の方々や高槻市によって行われ実績を上げておりました。下記冊子に当時の状況や調査結果などが詳しく記されています。

(下記の 2 冊は pdf での許可を頂いています。閲覧、ダウンロードできます)

『「鶴殿のヨシ原」保全対策調査研究報告書』高槻市発行

『鶴殿のヨシ原 特集号 1 1981 高槻公害問題研究会』

高槻公害問題研究会発行



(高槻公害問題研究会『鶴殿のヨシ原』p31 より)

[鶴殿のヨシ - Google ドライブ](#)

雅楽協議会 ホームページ

[鶴殿のヨシ | 雅楽協議会 \(gagaku-kyougikai.com\)](http://gagaku-kyougikai.com)

ですので、このようなヨシ原の状況では手作業による「つる草抜き」を行う事が「筆築用ヨシの再生」への現実的対応と考えています。それも 1 年、2 年で終わる作業ではありません。「筆築用ヨシの再生」を求めると、これから毎年毎年続けることをしないとすぐにまた「筆築用ヨシは全滅の危機」を迎えることになりましょう。

「つる草抜き」の方法 長続きさせるために

ボランティアからアルバイトへ

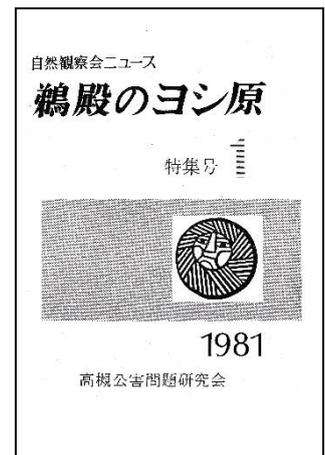
「つる草抜き」は、1 回、2 回では解決できません。40 年前の実績でも、4 月から 9 月の間に、1 回数人から 50 人ほどで、年間のべ 500 人余りの人がヨシ原に入り「つる草抜き」を行っています。特に 4 月～6 月はつる草の芽が出る時ですので、多くの人が多くの日数「つる草」などの芽を摘んでいます。その為の体制を組んでいくことが必要となります。

当初はボランティア(「完全無償の奉仕」)で行うと考えました、しかし 1 回、2 回は来てくれると思いますが、仕事を持っている人は「自分の仕事などで、毎月 1 回 ヨシ原に時間を割くのは困難、無理」となり、遠くの方は交通費も多額となります。ですのでこの方法では長続きはしないと思いました

次の案は「1 回 2000 円(交通費程度)を出す。この費用は寄付で賄う」と

いう案です。交通費は、交通費として消えてしまうものですので、中途半端すぎて、これも長続きしそうにありません。そこで次に考えたのは、5000 円～7000 円を考えましたが、この案も、交通費と弁当代を差し引きますと、1 日「つる草抜き」を行って、手元に残るのは 2 千円から 3 千円です。「ブラックアルバイト」と言われるのが落ちとなりそうです。まして「友人を誘ってつる草抜き」とはなりそうにありません。

とすると、どう考えても「アルバイトで 1 万円」の案が考えられました。学生アルバイトとして「高いか、安いか」は、交通費のかかり方にもよりますが、参加者に「交通費はいくらかかりましたか」と聞いて計算していますと事務作業が煩雑となります。(もし、その時間があるなら「つる草



『鶴殿のヨシ原』冊子表紙



(高槻公害問題研究会『鶴殿のヨシ原』p34 より)

抜き」に振り向けたい)

そこで扱いやすい「交通費など込で1万円」でいこうと決めました。

「半日」の枠もという意見も寄せられました。確かにそのような方も多いと思いますが、その為には「人数を予想し、金額を用意する」という手間がかかります。それで「半日で帰る、或いは半日しかできなかった。」という人に対しても1万円を支払い「その人が、半日なので半額は寄付します」と寄付に回していただければと思っています。事務局の人が「半日でしたら後で寄付に回していただければそれでよいです」と。

「1日の予定が、急に帰らなければいけない用事が出たとしても、その人の判断で、半額は寄付して帰る、或いは後日寄付をする」が良いと思い、そのようにしたいと思っています。

とにかく事務局の人の手間を減らし、事務局の人も「つる草抜き」を優先していただいて事務作業は減らしたいと思っています。

何にしろ、一人アルバイト料として1万円を支払う。そして、参加者の良心と判断で、寄付の金額を決めていただく。もし、「何もしないで、1万円もらって帰る人」がたとえ出たとしてもその人はその人の理由があって、何もしないで1万円を受け取って帰ったのだと思うので、それはそれで良いと思います。

(怪我などの対応だけは、事務局でしないといけないと思っていますので、保険に加入の準備を進めています。また税金についても「ヨシ対策室」で支払うよう手続きを進めています)



寄付を募って「つる草抜き」を

500万円から800万円を

「つる草抜き」の面積ですが、40年前の資料によりますと、約1600㎡(40m×40m)の面積で、年間のべ500人程度で「つる草を抜く」ことが出来たとありました。

これですとアルバイト費用は単純計算で(一人1万円×500人=)500万円となります。この面積ですと、筆算用ヨシが何本採れるか分かりません。より広い面積の「つる草抜き」を行いたいと思っています。

となりますと、500万円以上、800万円近くを集めない、と、思っているところです。

500万円は集まらないのではないかとこの計画は、挫折するかもしれない、と悩み考えました。とても悲観的に思いました。しかし、いろいろ考えました。東京からですとヨシ原まで交通費で3万円かかります。東京からの交通費代、一人3万円を出す人が、全国に(北は北海道から南は沖縄まで)100人おられたら300万円となります。2万円の人が100人、1万円の人が100人。この計算だと600万円となります。私が腹を決めたのは、「もし、これでヨシ原までの往復の交通費も出せないなら、これは雅楽が廃れても仕方がない」と思ったからです。

「雅楽を後世に伝えていくために」是非多額の寄付をお願いいたします。

雅楽協議会に「ヨシ対策室」を新設

「賛同団体」「賛同個人」になってください。

この「つる草抜き」を実行していくための組織として、雅楽協議会の中に「ヨシ対策室」を設け、「共同代表」「賛同団体」「賛同個人」「事務局」を置く事と致しました。

(「事務局」には会計を置き、会計監査も置きます。アルバイトに関わる税金は「ヨシ対策室」で支払

います。ケガなどに対する保険にも入ります)

「共同代表」は、別紙にありますように芸術院会員となりました豊英秋 元宮内庁楽部首席楽長ほか、宮内庁楽部の方々にお願ひしました。

多くの方々と共に「伝統文化」「伝統芸術」でもあります雅楽を後世に伝えていければ思っております。

是非 「賛同団体」「賛同個人」にご賛同いただきたく思います。(賛同いただくにあたって会費や寄付の心配はございません)

賛同頂きましたお名前は来年1月号「雅楽だより」に掲載させていただきます。賛同いただけます団体(〇〇雅楽会など)、個人の方は下記の連絡先へお願いいたします。



連絡先 雅楽協議会 「ヨシ対策室」

メール gagakudayori@yahoo.co.jp TEL 042-451-8898
fax 042-451-8897

〒188-0013 東京都西東京市向台町 6-12-6

鈴木治夫 TEL042-460-8899(仕事場)

(寄付の受付の口座の開設を準備しています)

下記は箏篳用ヨシの再生に向けて、問題点を動画にアップしたものです。(YouTube アドレスです)

-6の「今のヨシ原」は、上牧・鶴殿ヨシ原を木村和男さんの案内でくまなく撮影したものです。

今年の秋のヨシ原の箏篳用ヨシの全滅の様子を見ていただくことが出来ます。是非ご覧ください。

「箏篳の蘆舌 全滅の危機に 再生への道をさぐる-1

ヨシ原焼の歴史」 <https://youtu.be/etZMD8SOVmM>

「箏篳の蘆舌 全滅の危機に 再生への道をさぐる-2

失敗から学ぶ」 <https://youtu.be/nYXoJ0ZetF4>

「箏篳の蘆舌 全滅の危機に 再生への道をさぐる-3

再生に向けての試み-1」 <https://youtu.be/mnvyMnKuyN4>

「箏篳の蘆舌 全滅の危機に 再生への道をさぐる-4

つる草を抜く」 <https://youtu.be/HgVvk2dfPYU>

「箏篳の蘆舌 全滅の危機に 再生への道をさぐる-5

40年前 つる草を抜く ヨシを再生」 <https://youtu.be/vWwAKLWr4mw>

「箏篳の蘆舌 全滅の危機に 再生への道をさぐる-6

今のヨシ原」 <https://www.youtube.com/watch?v=eqsZXxMWg30>

「箏篳の蘆舌 全滅の危機に 再生への道をさぐる-7

ヨシ原焼とつる草抜き」 https://youtu.be/_yBTBLekj3I

「箏篳の蘆舌 絶滅の危機に 再生への道をさぐる-8

つる草抜きに向けて」 <https://youtu.be/0hBrpD6VUVQ>

「箏篳の蘆舌 絶滅の危機に 再生への道をさぐる-9

「ヨシ原焼きを」の声 12,924筆」 <https://youtu.be/dBl4uWOWOd8>